

招福 年賀状



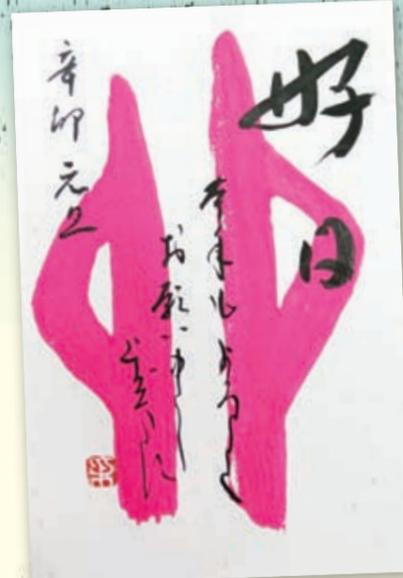
お正月の楽しみの一つ「年賀状」。
最近では手軽にパソコンで印刷したり、
メールのみですませる人も少なくありません。
そんな中、自作の絵とともに、自分あての
メッセージが一筆書き添えられた年賀状は、
きつと特別なぬくもりが感じられるはず。
そんな送り手の「手間・工夫」が光る
すてきな年賀状を、一部ご紹介いたします。



↑大森孝美榮さん(上野)「最初は薄く色を塗り、重ね塗りして濃淡を出しました。年賀状は家族で協力して仕上げます。」



↑森幸子さん(金田)「友だちに頂いた木の実はデッサン。透明水彩の持ち味を生かし、薄塗りでさわやかに仕上げました。」



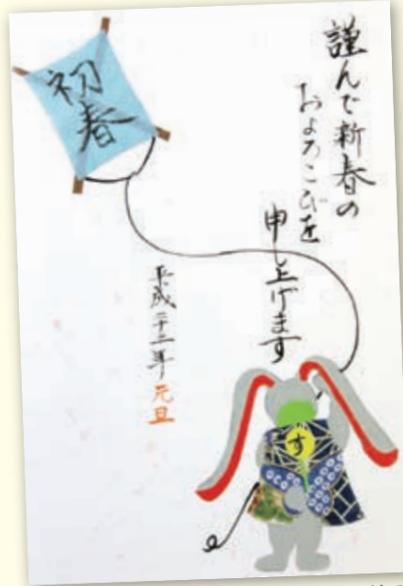
↑東眞須美さん(赤池)「木版画で甲骨文の“卯”を表現。知人に“見て元気になるようなものを”と言われて作りました。」



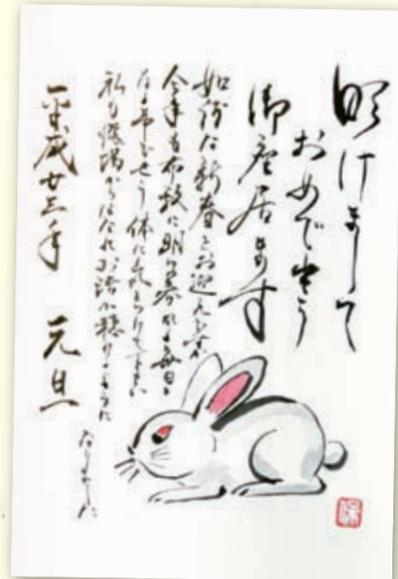
↑笠美穂子さん(弁城)「生活の中で心に残ったものを数種類描いて年賀状にしました。これは散歩中に見かけた青木です。」



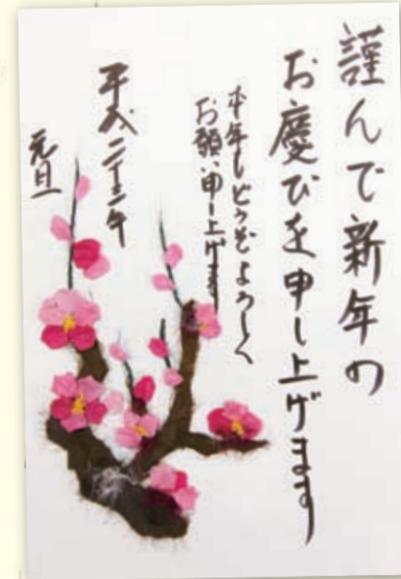
↑澤田富子さん(伊方)「押し花用に枯れないよう特殊な方法で乾燥させた花で、正月らしい羽子板などを表しました。」



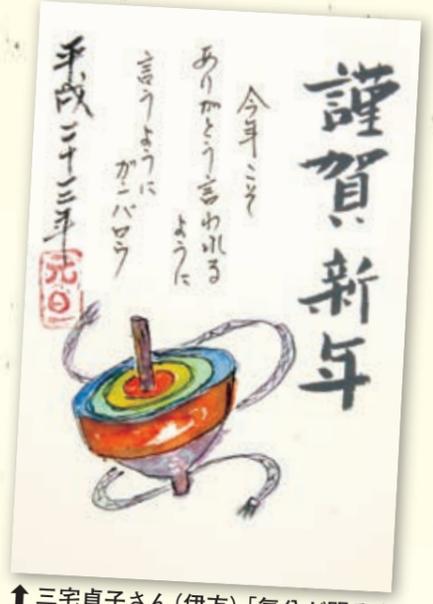
↑高野スミ子さん(伊方)「毎年切り絵の年賀状を楽しみにされます。切る柄の位置を工夫しながら楽しく作っています。」



↑永末保美さん(弁城)「70歳で水墨画を習い始め、その後15年間、年賀状は毎年2か月かけて一枚一枚手書きします。」



↑永富美智子さん(神崎)「薄い和紙で立体感を出すため、花びら一つひとつをピンセットで巻いて袋状にしています。」



↑三宅貞子さん(伊方)「気分が明るくなるような色味を心掛け、メッセージは一人ひとりに合わせて手書きました。」

絵手紙教室



「絵でも言葉でも与えられたものをかくのではなく、好きなものをかきたいようにかきなさいと教えています。作者は生徒たち一人一人。わたしはみなさんの手助けをするだけです」と話す是澤清一先生。福智町社会福祉協議会が行う「生きがいデイサービス」の「絵手紙教室」で、想いが伝わる絵手紙のかき方をアドバイスしています。

なお「生きがいデイサービス」では、ほかにも「書道」や「レザークラフト」などの教室が楽しめます。

☎ 22-13778
☎ 22-13778
☎ 22-13778

福岡県文化団体連合会副会長
画家 是澤清一先生



→高木淳子さん(赤池)の作品

